

取扱説明書

コンパクトタイプ

ダイキ小規模合併処理浄化槽
TRB-14～35 型
TRB 2-40～50 型



注意

- ・取扱説明書本文に出てくる警告および注意表示の部分は、浄化槽を使用する前に特に注意深く読み、よく理解してください。



安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この「安全にお使いいただくために」と取扱説明書本文をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。お読みになった後は、いつでも見られる場所に必ず保管して下さい。

警告 1) 消毒剤による発火・爆発・有毒ガス事故防止

- 消毒剤は強力な酸化剤です。消毒剤の取扱説明書にしたがって取り扱って下さい。
 - 消毒剤には塩素系の無機・有機の2種類があります。これらを一緒に塩素滅菌器に入れないで下さい。
- これらの注意を怠ると、発火、爆発、有毒ガスの発生の生ずる恐れがあります。

警告 2) マンホール・点検口などからの転落・傷害事故防止

- マンホール・点検口などの蓋は、必ず閉めて下さい。また、ロック機構のあるものは、必ずロックして下さい。
 - マンホール・点検口などの蓋のひび割れ・破損など異常を発見したら、直ちに取り替えて下さい。
 - 滑りやすい靴を履いて、歩廊・タラップなど危険な場所を歩かないで下さい。
- これらの注意を怠ると、転落・傷害の生ずる恐れがあります。

警告 3) 荷重による器物破損・傷害事故防止

- 浄化槽の上には、設計車両以上の車両は乗り入れないで下さい。
- これらの注意を怠ると、器物破損・傷害の生ずる恐れがあります。

警告 4) 感電・発火、巻き込まれ事故防止

- ブロワ・制御盤の近く（約50cm）には、ものを置かないで下さい。
 - 電線・電源コードの上には、ものを置かないで下さい。
 - ブロワ・制御盤などの電気系統が故障した場合は、維持管理業者又は工事業者に連絡して下さい。
- このような注意を怠ると、感電・発火の生ずる恐れがあります。

注意 5) その他

- 設計仕様書（計算書）に基づき設計されておりますので、設計数値（水量・濃度など）の範囲内での運転をお願いします。
- 水量及び濃度がオーバーした場合、処理水質が悪化する事があります。

目次

安全にお使いいただくために	…… 1
目 次	…… 2
1. ご使用になる前に	…… 3
2. T R B 型（T R B 2 型）の設計仕様	…… 4
3. 処理工程（フローシート）	…… 5
4. 各槽のはたらき	…… 5
5. 各機器等のはたらき	…… 7
6. ご使用の際のご注意	…… 8
7. 浄化槽の維持管理	…… 9
8. アフターサービスと保証	…… 10

このたびは、ダイキ小規模合併浄化槽TRB型（TRB2型）をご採用いただきましてありがとうございます。

浄化槽が所定の機能を果たすために、この取扱説明書に記載されている事項を十分にご理解いただいたうえで、正しくご使用して頂くようお願い申し上げます。

1. ご使用になる前に

浄化槽をご使用になる前に、次の事項をご確認下さい。

1) 設置申請届はお済みになりましたか

浄化槽の設置に必要な書類・手続きはお済みになりましたか。必ずご確認ください。

建築基準法や浄化槽法によって義務づけられていますので、工事着工前に官公庁宛に所定の設置申請届を提出する必要があります。

これらの手続きは、弊社が代行して提出していますが、書類などが完備しているかご確認ください。

・新築の場合（建築基準法第6条）

建築確認申請の際に、建築図面、見取り図、浄化槽構造図など必要な書類を建築主事に提出することになっています。

・改造の場合

設置届を都道府県知事（保健所）に提出することになっています。

2) 維持管理契約はお済みになりましたか

浄化槽の正常な働きを維持するために、法律により定期的に維持管理（保守点検および清掃）することが義務づけられています。

浄化槽の保守点検および清掃には、それぞれ技術上の基準があります。維持管理は都道府県に登録している保守点検業者と契約して下さい。**なお、本浄化槽は弊社独自の処理方式の浄化槽ですので、弊社指定の維持管理業者と契約することをお勧めいたします。**汚泥引き抜きなどの清掃は、市町村長の許可を受けた清掃業者に依頼して下さい。

契約がお済みでなければ、弊社にご連絡下さい。維持管理業者をご紹介します。

2. T R B 型（T R B 2 型）の設計仕様

ダイキ小規模合併処理浄化槽T R B 型（T R B 2 型）は、トイレからの排水だけでなく、建築物から排出される厨房や風呂、洗濯などによる全ての生活雑排水を合わせて処理する合併処理浄化槽です。建築物から排出された汚水（尿尿・生活雑排水）は、浄化槽で微生物の働きになどにより汚濁物質が浄化されたのち、消毒して公共用水域に放流されます。

1)関係法令

建築基準法施行令第 3 5 条 1 項の規定に基づき、国土交通大臣認定を取得

2)放流水質

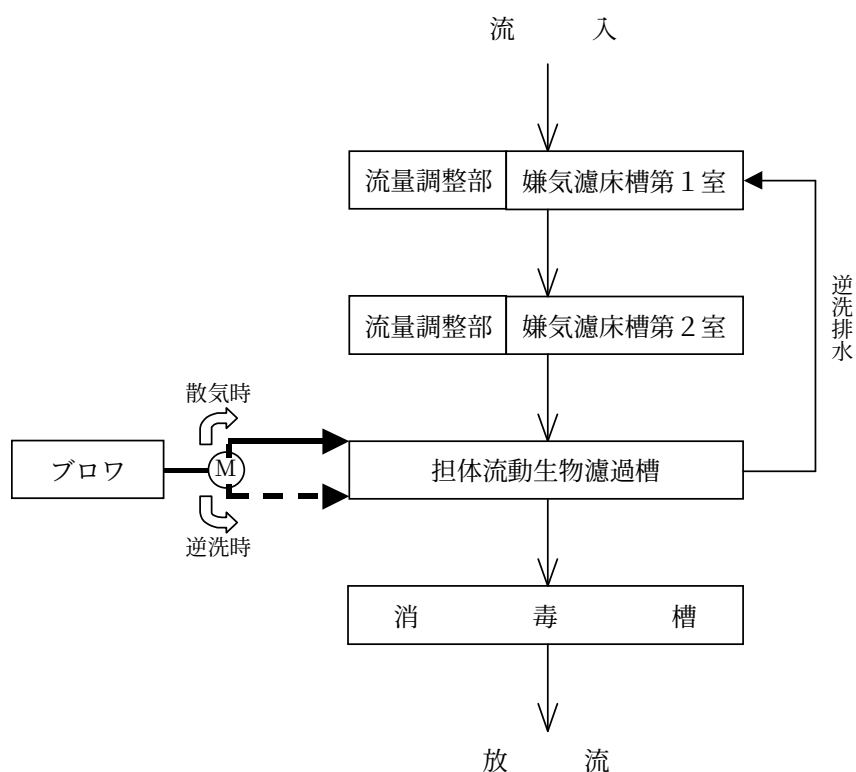
B O D	20 mg/L
C O D	30 mg/L
S S	20 mg/L
p H	5.8～8.6
大腸菌群数	3,000 個/cm ³

3)製品

形 状	型式	人 槽	認定番号
カプセルタイプ	TRB-14 型	14 人槽	8-05-H-003-1
	TRB-18 型	18 人槽	8-05-H-003-3
	TRB-21 型	21 人槽	8-05-H-003-4
	TRB-25 型	25 人槽	8-05-H-004
	TRB-30 型	30 人槽	8-05-H-004-1
	TRB-35 型	35 人槽	8-05-H-003-5
φ2,000 円筒横置タイプ	TRB2-40 型	40 人槽	8-05-H-005
	TRB2-45 型	45 人槽	8-05-H-005-1
	TRB2-50 型	50 人槽	8-05-H-005-2

3. 処理工程（フローシート）

処理工程は以下のようになっています。各槽及び装置の位置は構造図面でご確認下さい。



※ オプションとして、原水ポンプ槽、放流ポンプ槽を設ける場合があります。

4. 各槽のはたらき

流入してくる汚水を嫌気濾床槽の上部に設けた流量調整部に一時的に貯留し、流量調整装置（間欠定量ポンプ）で担体流動生物濾過槽へ定量移送します。担体流動生物濾過槽で浄化された水は消毒槽に流れ塩素殺菌後に放流されます。

1) 流量調整部

嫌気濾床槽第1室、第2室の上部に設けられています。流量変動を緩和し、その後の生物濾過槽にかかる負荷を安定化させます。

2) 嫌気濾床槽

流入汚水中に含まれる固形物や夾雑物を分離し、分離された固形物を貯留すると共に、嫌気性菌による BOD の低減を図ります。

3)流量調整装置

間欠的に汚水を移送する動作を繰り返し、汚水を担体流動生物濾過槽に移送します。

4)担体流動生物濾過槽

担体流動生物濾過槽は、担体流動部、生物濾過部より構成されており、槽内には合成樹脂製多孔質担体（以下担体と略す）を投入しています。

①担体流動部

ばっ気により常時担体が流動し、担体に付着した微生物により汚水中の汚濁有機物を吸着分解しています。

②生物濾過部

担体流動部で発生した汚泥の除去を目的としています。生物濾過部は担体が自重により沈降して形成されます。自動逆洗時には生物濾過部の下からエア逆洗を行い、担体に捕捉されていたSSが剥がれ、逆洗排水移送装置にて嫌気濾床槽第1室に移送されます。

③担体流動生物濾過槽内循環装置

逆洗後の初流の排出と生物濾過部の再生を図る機能として、槽内循環装置を設けています。通常散気時にのみ作動します。

5)消毒槽

担体流動生物濾過槽から移行した水を塩素消毒器内の固形塩素剤と接触させ消毒します。消毒槽内で消毒剤と十分接触した処理水は槽外へ放流します。

○オプション

1)原水ポンプ槽

浄化槽の設置上の都合で流入管底が深くなる場合に、施工及び維持管理の困難さを避けるために設けます。

2)放流ポンプ槽

放流先の水位の関係で自然放流ができない場合に設置します。

5. 各機器等のはたらき

浄化槽には以下のような機器等が設置されており、そのはたらきは以下の通りとなっています。
なお設置場所は構造図面でご確認下さい。また詳細は各機器の取扱説明書をご参照下さい。

1) ブロワ

汚水を浄化するために必要な空気（酸素）を送ります。またブロワから送られる空気は、流量調整装置（間欠定量ポンプ）、逆洗用にも使用されます。

2) タイマーユニット

ブロワの吐出配管に取り付けます。タイマーと弁が内蔵されており、タイマー設定により自動で逆洗を行います。通常時には散気配管側にエアが送られるようになっていますが、逆洗時には逆洗配管側にエアが送られるよう弁が作動します。

3) 担体

担体流動生物濾過槽には 10mm 角のスポンジ状担体を投入しています。

○オプション

1) 水中ポンプ

原水ポンプ槽、放流ポンプ槽に使用されます。

6. ご使用の際のご注意

浄化槽の正常な機能を維持するために、「安全にお使いいただくために」の記載事項のほか、次の事項をお守り下さい。

- 1) し尿を洗い流す水は、適正量として下さい。
- 2) トイレットペーパーは水に溶けやすいものを適量で使用して下さい。トイレには異物入れを留意して、紙おむつや衛生用品、タバコなどの異物は絶対に流さないで下さい。詰まりや浄化能力の低下の原因になります。
- 3) 厨房の調理クズなどは回収し、流さないようにして下さい。天ぷらの油などは、古新聞や凝固剤で処理して下さい。また、食器洗いなどに使用する洗剤は、多く使い過ぎないようにして下さい。詰まりや浄化能力の低下の原因になります。
- 4) 便器や風呂場の清掃には、塩酸・殺虫剤・防臭剤などの強い薬品の使用は避けて下さい。微生物やバクテリアが死滅し、汚水が浄化されなくなります。また、糖尿病などにより薬を服用している場合は、浄化されないことが有りますのでご注意下さい。
- 5) 洗濯の際には、洗剤の使用量はメーカーの指示量を守り、あまり多く使い過ぎないように注意して下さい。リンを含む洗剤は、できる限り使わないで下さい。また、漂白剤を多量に使用しますと、微生物が死滅し浄化機能が損なわれます。
- 6) マンホール(点検口)のフタがずれている場合は、危険ですからミゾにきちんとはめて下さい。万一異常が認められた場合は、維持管理業者にご連絡して下さい。
- 7) マンホールやブロワの上には、重い物を置かないで下さい。とくに可燃性の物や危険物は遠ざけて下さい。
- 8) ブロワが停止すると、槽内の微生物が死滅し汚水が浄化されないため悪臭が発生します。また、ポンプが停止すると、浄化槽から汚水が溢れる危険性があります。浄化槽の電源は絶対に切らないで下さい。
- 9) 浄化槽では、消毒剤や様々な機器を使用しています。機械室の出入り口には施錠をし、関係者以外の人はいれない様にして下さい。
- 10) 次のような場合は、ご契約の維持管理業者にご相談下さい。
 - ・ 消毒剤の補充
 - ・ 長期間ご使用にならないとき
 - ・ ブロワ、ポンプなどの機器類が停止したとき
 - ・ 異常音が発生しているとき
 - ・ 臭気がひどいとき
 - ・ 泡が異常に発生したとき
 - ・ 冠水したとき
 - ・ 停電したとき、または停電の通知があったとき
 - ・ 警報装置が作動したとき

7. 浄化槽の維持管理と清掃

浄化槽の維持管理は、ご契約になった専門業者が行います。その仕事について概略をご理解下さい。

1)維持管理とは

維持管理とは、浄化槽の健康診断のことです。浄化槽は生きています。槽内の微生物の活動により、休むことなく浄化作用が行われています。従って、浄化槽の正常な機能を維持し適正な水質を確保するため、定期的に保守点検（健康診断）をして、異常の早期発見と適正な清掃・修理（治療）をしなければなりません。これが維持管理です。浄化槽法により、お客様には定期的な維持管理が義務づけられています。専門の維持管理業者とご契約下さい。また、このほかに年1回は公的機関による水質検査など（法定検査）を受けることも浄化槽法で定められています。

- ・維持管理を行うことにより、結果的に維持費がお得になります。
- ・維持管理が不十分ですと公害発生の原因となります。

2)保守点検の内容

浄化槽の正常な機能を維持するため、下記に示す事項の点検と、点検結果に基づく単位装置および付属機器類の修理が保守点検の主な内容です。

- ①使用に関する準則の遵守の状況
- ②流入管渠と槽の接続および放流管渠と槽の接続状況
- ③槽の水平の保持の状況
- ④流入管渠における尿尿、雑排水などの流れ方の状況
- ⑤単位装置および付属機器類の設置の状況
- ⑥スカムの生成、汚泥の堆積、生物膜の生成、その他の単位装置および付属機器類の機能の状況

詳しくは「維持管理要領書」をご参照ください

3)保守点検および清掃の回数

浄化槽法では、第1回目の保守点検は浄化槽の使用を開始する直前に行うものとされています。その後の保守点検の回数は、厚生省令により20人槽以下は4ヶ月1回以上、21人槽以上は3ヶ月に1回以上が基本となります。

清掃の回数は、厚生省令により年1回以上となっています。清掃時には担体流動生物濾過槽内から絶対に担体を引抜いてはいけません。

4)維持管理の費用

維持管理の費用は、地区によって多少異なっています。ご契約の際、維持管理業者にお問い合わせ下さい。清掃費、水質検査費などは別料金となり、交換部品（寿命部品含む）、修理費などは実費計算となります。

ダイキ浄化槽保証書

- ① 本書は、本書記載内容（次項記載）に従って修理を行うことをお約束するものです。
- ② 使用開始日より保証期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売・施工業者または維持管理業者などに修理をご依頼ください。
- ③ 本書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

＊型式名	T R B ー 型 (T R B 2)	浄化槽製造番号：
		ブロワ製造番号：

保 証 期 間	対象部品	期間（使用開始日より）	駆動部はブロワ・ポンプなどの 設置設備類を含む
	槽本体	3 ヶ年	
	駆動部 内部部品	1 ヶ年	

但し、ダイアグラム、オイル、消毒剤等の消耗部品は除く。

＊据 付 日	平成 年 月 日
＊使用開始日	平成 年 月 日
＊ 使 用 者 (設置者)	ご住所
	お名前
	電 話 ()

修理記録

年 月 日	内 容	業 者 名
・ ・		
・ ・		
・ ・		

＊施工業者 住 所	
社 名	⑩
電 話 () ー	
浄化槽設備士名	
浄化槽設備士証 No. 第	号

＊印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

株式会社 ダイキ アクシス

本社/愛媛県美沢 1－9－1 環境機器カンパニー・(089)927-2222

修理規程

1. 取扱説明書、取扱要領書、取扱ラベル等の注意書きに従って正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理いたします。なお、離島及び離島に準ずる遠隔地へ出張を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
2. 保証期間内に、故障して修理をお受けになる場合は、お買い上げの販売・施工業者または維持管理業者にご依頼ください。この浄化槽は出張修理いたしますので、その際には本書をご提示ください。
3. 保証期間内にご転居の場合には、保証書の書き換えがありますので事前に弊社までご連絡ください。
4. 本書に記入してある施工業者または維持管理業者等に修理をご依頼になられない場合には、お近くの弊社窓口へご相談ください。
5. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤りによる故障または損傷
 - (ロ) 適切な維持管理がなされていないとき
 - (ハ) 適切な工事がなされていないとき
 - (ニ) 改造や不適切な修理による故障または損傷
 - (ホ) 駆動部の取付場所の移動等による故障または損傷
 - (ヘ) 重量車両の通行・振動による故障または損傷
 - (ト) 火災、地震、水害、落雷、雪害その他の天災地変による故障または損傷
 - (チ) 本書の提示のない場合
6. 本書は日本国内に於いてのみ有効です。
7. その他のご注意事項
 - (イ) 浄化槽は「浄化槽法」により、使用者（設置者）は定期的に保守点検、清掃、水質検査を行うことを義務づけられております。これらの費用は保証期間内でも別途ご使用者（設置者）のご負担となります。
 - (ロ) この保証書は「機能」を保証するもので、「性能」を保証するものではありません。
 - (ハ) 本書に使用開始日または据付日、使用者（設置者）、施工業者の記入のない場合及び字句を書き替えられた場合は、この保証書は無効です。

この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理については、施工業者、維持管理業者または、お近くの弊社窓口にお問い合わせください。